

館蔵品展



狩野派

以外

学習帳

会 期 令和5年(2023)

8月26日(土)―10月1日(日)

開館時間 9時30分―17時(入館は16時30分まで)
休館日 月曜日

(但し9月18日は開館し、翌19日(火)は休館)

主催・会場 板橋区立美術館
観覧料 無料

板橋区立美術館

〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-34-27
電話 03-33979-3251
<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/>

江戸にきらめいた 民間の絵師たち



当館では、江戸絵画の正統を成した江戸狩野派に注目した館蔵品展「狩野派学習帳」を令和二年(二〇二〇)に行いました。本展はその第二弾として、民間の絵師の作品を中心にご紹介します。

このたびの展示では、古来より描き継がれた二つの画題「富士山」と「牡丹」に着目し、江戸狩野派との比較なども交え、館蔵品・寄託品を通して民間の絵師たちの活況をお伝えします。また、修復後初公開となる三作品も展示します。



① 狩野探幽《富士山図》



② 司馬江漢《鉄砲洲富士遠望図》 歸空庵コレクション



③ 作者不詳《江戸風景》 歸空庵コレクション



④ 野崎真一《富士・三保松原図》

日本一の山・富士山

富士図は権威の象徴としての側面があり、その制作は江戸幕府の御用絵師である狩野派の重要な勤めの一つでした。江戸狩野派の祖である狩野探幽による淡白な富士山(①)は、時代の規範となりました。一方で、富士山は多くの人々に好まれ、民間の絵師たちは競うように富士図に腕を振るいました。本展では、遠近感のある表現に長けた司馬江漢の作品(②)や、青空の下に名所を配し江戸土産としても人気を得た泥絵(③)、江戸琳派によるもの(④)など、様々な画風による富士図がご覧頂けます。



⑤



⑥



⑦



⑧

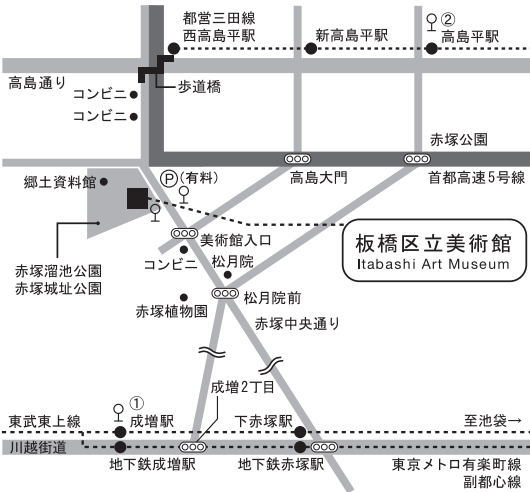
掲載作品は、歸空庵コレクション以外は当館蔵です。

百花の王・牡丹

花鳥画人氣が高まった江戸時代、中でも牡丹図は豪華で美しいばかりでなく富貴の象徴としても尊ばれ、狩野派から民間の絵師までが多くの需要に応えました。宋紫石(⑤)や小田野直武(⑥)を先駆けとした舶来の画風から影響を受けた写実的で生気に溢れた作品、洗練された江戸琳派の作品(⑦)などが人々を魅了しました。古典様式について学習を重ねる江戸狩野派でも、新機軸の作品が探求されました(⑧)。

左から

- ⑤ 宋紫石《牡丹小禽図》
- ⑥ 小田野直武《岩に牡丹図》 歸空庵コレクション
- ⑦ 鈴木其一《双鶴春秋花卉図》(部分)
- ⑧ 狩野栄信《花鳥図》



関連イベント

- 古美術を楽しむワークショップ[定員10名、参加費500円、要事前申込]
日時：9月9日(土)10:00～12:00/14:00～16:00(各回内容同じ)
会場：1階講義室 講師：当館学芸員
江戸絵画をより楽しむための講座です。作品に描かれた画題について各々考え理解を深め、作品の取り扱いも実践的に学びます。参加者にはワークシート等おみやげも差し上げます。
※要事前電話申込、受付開始8月26日(土)9:00より、1申込につき2名まで、先着順、月曜休館
- 学芸員によるギャラリートーク[参加無料、事前申込不要(当日直接2階展示室までお越し下さい)]
日時：9月2日(土)、23日(土・祝) いずれも14:00～14:30

交通案内

- 徒歩 都営三田線「西高島平駅」下車約14分
- 路線バス(1時間に1～2本程度 所要時間約10分)
 - ①東武東上線「成増駅」北口2番のりば「増17区立美術館経由 高島平操車場」行き「区立美術館」下車
※東京メトロ有楽町線・副都心線「地下鉄成増駅」も利用可(5番出口)
 - ②都営三田線「高島平駅」西口2番のりば「増17区立美術館経由 成増駅北口」行き「区立美術館」下車
- タクシー 東武東上線「成増駅」北口または都営三田線「高島平駅」西口より約5分

(今後板橋区立美術館で行う展覧会予定)

2023年11月18日(土)～2024年1月8日(月・祝)
館蔵品展 展覧会のちょっといい話ー絵本と近代美術のあれこれー

2024年3月2日(土)～4月14日(日)
『シュルレアリスム宣言』100年 シュルレアリスムと日本